

国有林についてのイメージ調査 ～山間地域と市街地域との比較～

盛岡営林署 雫石森林管理センター
森林官 高原 直子

1 はじめに

昨年4月に森林官として雫石町に赴任した。当地域では女性森林官は初めてということで、新聞やラジオの取材を受けるという希少な機会をいただいた。また、その影響があつてか一般の方からも多く声をかけていただいた。

その中で、「国有林ではどんなことをしているのか」「国有林の場所はどこか」という意見が多く聞かれ、一般の人たちの国有林に対する印象が薄いように感じられた。

また、国有林は「木を切つて自然を壊している場所」と厳しい意見を聞くこともあつたが、お話を伺つてみて、そうした一部の方たちは国有林に対するイメージがどこか偏つたものになっているように思うこともあつた。

今回、多くの人たちが国有林に対してどのようなイメージを持っているかを把握して、これからの新しく変わる国有林のPR活動の参考になればと考え、アンケート調査を行ったので、その経過と結果を報告する。

2 研究方法

今回は、国有林に近く関わりが多いと思われる山間地域と、国有林から距離が離れ関わりが少ないと思われる市街地域を調査対象とし、地域の違いで意識の差があるかどうかをアンケート調査した。また同時に、年齢別に見て意識の差があるかどうか、特に10代の人たちが国有林についてどのように感じているかということに注目し、調査・分析をした。

(1) 調査対象

調査対象とした市町村は、それぞれの森林面積に対する国有林野面積の割合と(50%以上なら山間地域、50%以下なら市街地域とした)、実際の都市化の状況を考慮して分類した。

(単位) 面積: ha 比率: %

	市町村名	区域面積①	森林面積		森林比率	国有林野率
			総数②	国有林③	②/①×100	③/①×100
山間地域	雫石町	60,901	49,763	33,400	82	67
市街地域	盛岡市	48,915	33,987	6,196	69	18
	滝沢村	18,232	9,925	4,434	54	45

表-1 各市町村の森林状況

(2) 調査場所及び調査日

○滝沢村岩手産業センター（岩手めぐみフェア一般来場者）

・・・平成10年10月17日

○雫石町立体育館（雫石町産業まつり一般来場者）

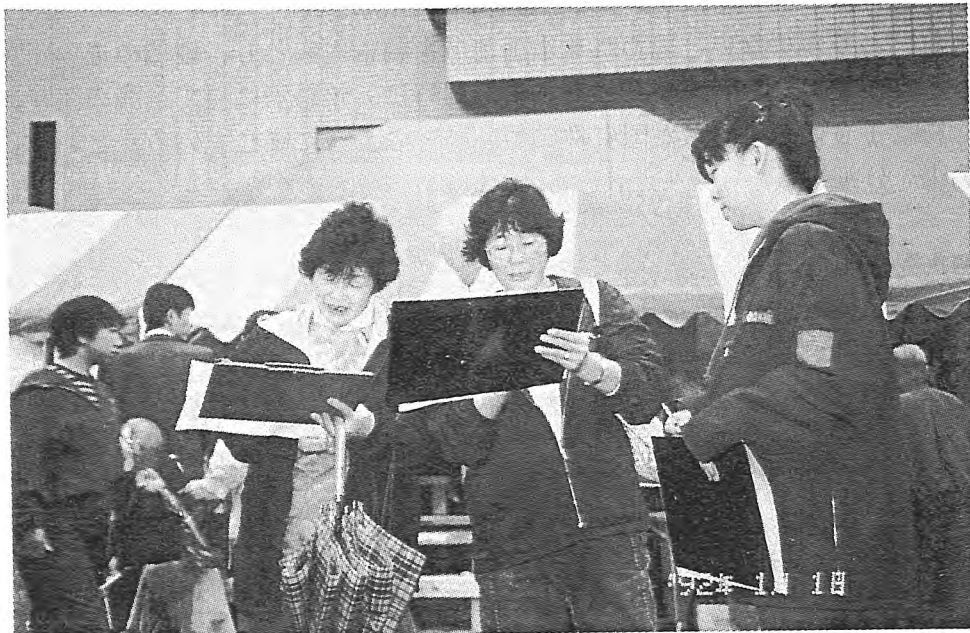
・・・平成10年10月31日

○盛岡市立高等学校（在校生徒）

・・・平成10年11月4日



写-1 岩手めぐみフェア会場風景



写-2 アンケート調査風景



写-3 盛岡市立高等学校アンケート調査依頼風景

(3) アンケート項目

今回は、一般の人たちが国有林をどのくらい知っているかを問うものではなく、国有林をどんなふうに感じているのかを問うものとした。質問の内容は、下記のとおりである。また、質問の中で言われる「山・森林」は、国有林・民有林を含めた山全般を意味している。

国有林に対するアンケート

雫石森林管理センター

性別	男	女				
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
ご在住市町村名	盛岡市	滝沢村	雫石町	その他 ()		

以下の質問について、該当するものに○印を付けてお答えください。

Q 1 「山」「森林」についての、あなたのイメージに近いものを次の項目の中から一つ選んでください。

- 1 明るい、気持ちが安らぐ
- 2 暗い、落ち着かない
- 3 わからない

Q 2 あなたは、「山」や「森林」とどんなつながりがありますか。主なものを2つを選んでください。

- 1 登山や森林散策
- 2 山菜・きのこ取りへ行く
- 3 森林教室などのイベントへの参加
- 4 動植物の観察・研究
- 5 林業従事
- 6 特に関わりがない
- 7 その他 ()

Q 3 あなたは生活の中で、「山」や「森林」を身近に感じますか。

- 1 強く感じる
- 2 少しは感じる
- 3 あまり感じない
- 4 全く感じない

Q 4 「国有林」という言葉を聞いたことはありますか。

はい いいえ

Q 5 ①で「はい」の方について、その言葉をどこで聞きましたか。

- 1 新聞・テレビ・ラジオなどのニュース
- 2 森林に関するイベントなど
- 3 知り合いや親戚の人の話
- 4 自分が関係していた
- 5 その他 ()

Q 6 「国有林」についての、あなたのイメージに近いものを次の項目の中から一つ選んでください。

- 1 明るい、気持ちが安らぐ
- 2 暗い、落ち着かない
- 3 わからない

Q 7 「国有林」には、どんな木が多くあると思いますか。

- 1 ナラ（ドングリの木）、クルミ、ブナ等の広葉樹が多い
- 2 スギ、マツ等の針葉樹が多い
- 3 広葉樹と針葉樹が半分くらいずつ

Q 8 「国有林」のはたらきにはどんなものがあると思いますか。次の項目の中から2つ選んでください。

- 1 キャンプなどの遊びの場
- 2 水をたくわえる場
- 3 木を切り丸太を出す場
- 4 動植物の生活の場を守るところ
- 5 土砂崩れなどを防ぐための場
- 6 みどりの山を育てる場

Q 9 あなたは生活の中で、「国有林」のはたらきを身近に感じますか。

- 1 強く感じる
- 2 少しは感じる
- 3 あまり感じない
- 4 全く感じない

Q 10 あなたは、山での仕事に興味がありますか。

- 1 ある
- 2 少しはある
- 3 あまりない
- 4 全くない

Q 11 「国有林」に対するご意見がありましたらお聞かせください。

3 調査結果と考察

アンケートを集計した結果、回答者数は以下のようになった。

集計の際、地域間の違いの比較は20代以上の回答を使用し、10代の回答については年代別の比較だけに使用した。

	男	女	計
市街地域	23	21	44
山間地域	22	25	47
計	45	46	91

表-2 地域別比較の回答者数

	男	女	計
10代	53	45	98
20~40代	24	32	56
50代以上	21	14	35
計	98	91	189

表-3 年齢別比較の回答者数

(1) あなたは「山」「森林」とどんなつながりがありますか。(Q2)

地域間の違いとしては、「林業従事」の割合が、市街地域よりも山間地域で高くなっている。このことから、山間地域では山と生活が直接に関わっていることを窺うことができる。

「登山」や「山菜採り」は、両地域で多く選ばれており、山との関わりとして人気があるようだ。「森林教室等イベントへの参加」の項目については、市街地域で多く選ばれているのではないかと予想していたが、0%という結果となり、山間地域でも4%という低い割合であった。森林クラブや教室は、営林局・各営林署でも力を入れている部分である。だが、この地域ではまだ一般的には浸透していないようであり、我が署にとって反省する点である。今後はより多くの人たちに活用してもらえるよう工夫していくべきだろう。「関わりがない」という項目も、市街地域で多くなるのではないかと予想していたが、結果は両地域とも10%に止まった。

以上のことから、この質問については両地域は共通する点の方が多く、地域に関係なく何らかの形で山との関わりを持つ人が多いということがわかった。

一方、年代別の比較をしてみると、10代で「関わりがない」と答えた人が40%となっており、他の年代の人と比べて山との関わりが薄いことがわかった。

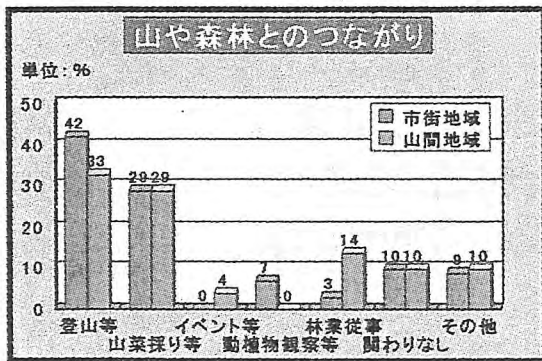


表-4

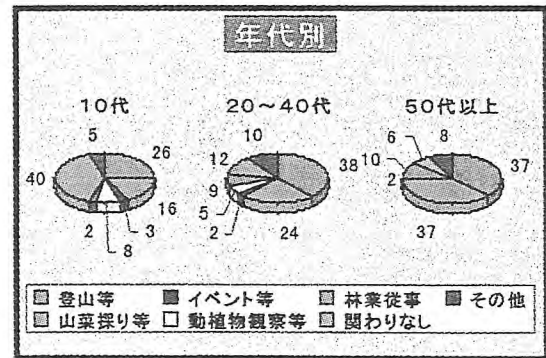


表-5

(2) 「国有林」という言葉を聞いたことはありますか。(Q4)
 どこでその言葉を聞きましたか。(Q5)

両地域とも、回答者全員が「国有林」という言葉を知っていた。10代でも85%の人が知っているとしており、言葉としての浸透は確かなようだ。

次に、その言葉をどこで聞いたかという質問をしたところ、2つの地域間に大きな違いが見られた。ニュース等マスメディアを通じて知ったという人の割合が、市街地域では75%であるのに対し、山間地域では45%に止まり、そのかわり知り合いの話や仕事等で自分との直接の関係があるという回答が多かった。このことから、山間地域ではより身近なところから国有林の情報を受けとっていることが言える。

また、この質問に対して10代では「学校の授業で聞いた」「教科書に載っている」という回答が目立った。ニュース等で知ったという人は66%おり、直接的な関わりで国有林を知った人はほとんどいない。多くの高校生にとって国有林は現実感の薄い存在であることは否めないように思う。

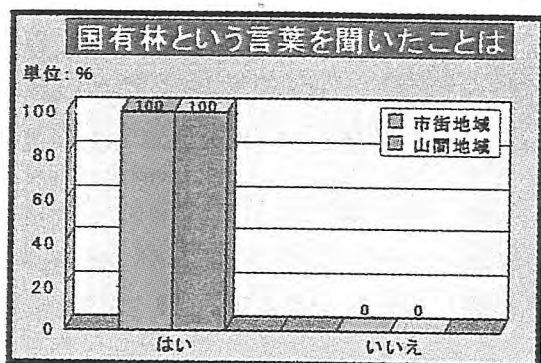


表-6

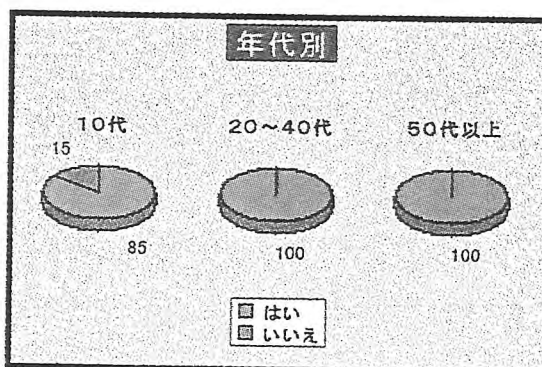


表-7

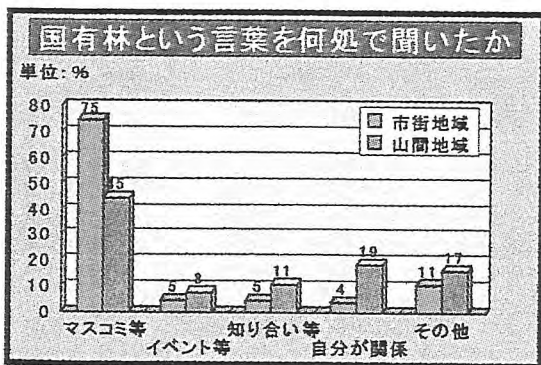


表-8

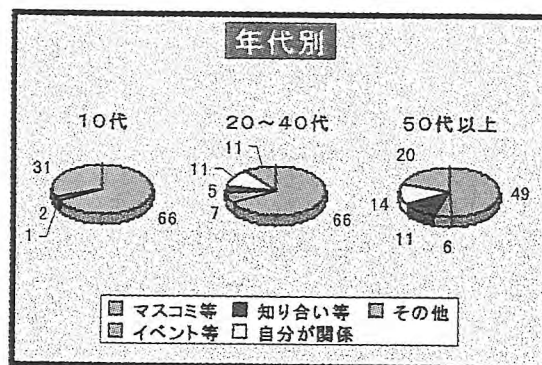


表-9

(3) 山・森林に対するイメージと国有林に対するイメージの比較

この質問は、人々が国有林の外見的な印象をどのように感じているかを知りたいと考え設定した。また、一般的な「山」と聞かれた場合と「国有林」と聞かれた場合でイメージの違いがあるのではないかと考え、同じパターンの質問を繰り返して設定してみた。

ア 「山」「森林」についてのあなたのイメージは？(Q1)

両地域ともに90%以上の方が「明るい」と答えている。年代別に見ても、20代以上では90%、10代でも約70%の方が「明るい」と答えている。多くの人が山に対して良い印象を持っているということは、素晴らしいことだろう。

しかし一方では、年代が若いほど「わからない」という回答の割合が増えている。Q2において、10代では山との関わりがないと答えた人が他の年代に比べて多いという結果が出たことから考えて、「関わりがないからわからない」というつながりになっているのではないだろうか。

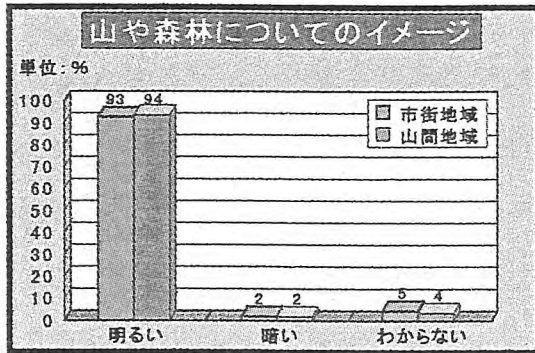


表-10

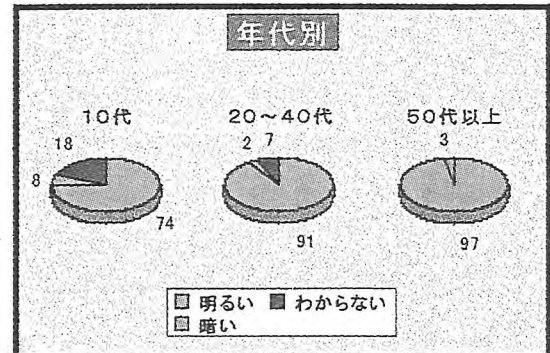


表-11

イ 「国有林」についてのあなたのイメージは？(Q6)

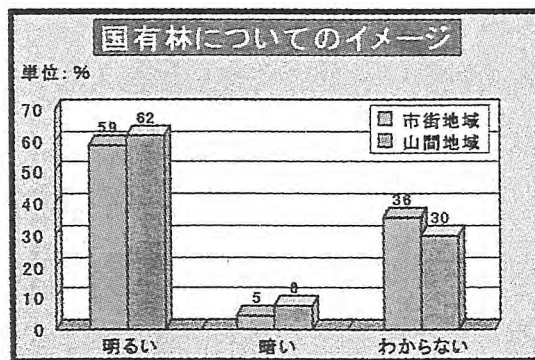


表-12

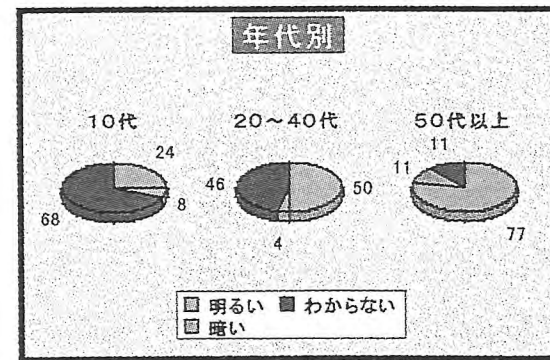


表-13

ここでも、両地域ともに約60%の方が国有林のイメージを「明るい」と答えており、地域間の大きな違いはなかった。

しかし、上記のQ1の結果と比べてみると、両地域ともに「明るい」という回答が減り、「わからない」と答えた人が多くなっていることも事実である。年代別で見ても、「わからない」を選んだ人の割合は、Q1では10代だけに目立って見えていたが、この質問では各年代で多くなっていることがわかる。

「国有林」という言葉を聞いたことはあるがイメージがわからないということは、そ

の人が国有林に具体的な形で触れる機会が少なく印象が薄いということではないだろうか。上記の「国有林という言葉はどこで聞いたか」という質問で見られたように、ニュースで聞くだけでは強い印象は受けないだろう。

(4) **国有林にはどんな木が多くあると思いますか。(Q7)**

この質問も、国有林の外観的な印象としてどう思われているだろうかという考えで設定した。

結果は、山間地域で半数近い人が「広葉樹が多い」と答えており、市街地域の人より高い割合だった。市街地域の回答は、3つの選択肢に均等に分かれており意見がまちまちであった。ある意見で、「どこが国有林なのかわからない」というものがあったことから考えて、山間地域の人たちは国有林は奥山であり針葉樹の多く植えられている里山は民有林であるという印象があり、市街地域の人たちは国有林と民有林を区切らずに見ているのではないかと考える。

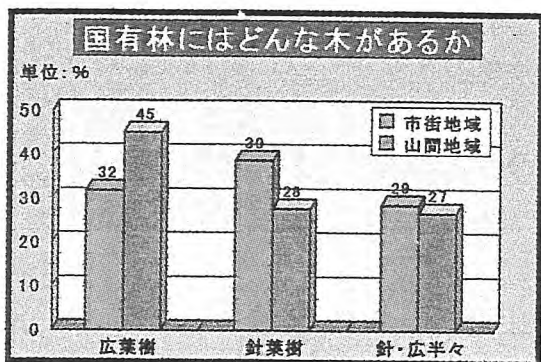


表-14

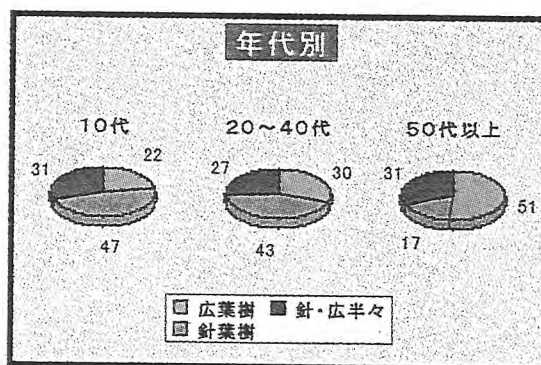


表-15

(5) **「国有林」のはたらきにはどんなものがあると思いますか。(Q8)**

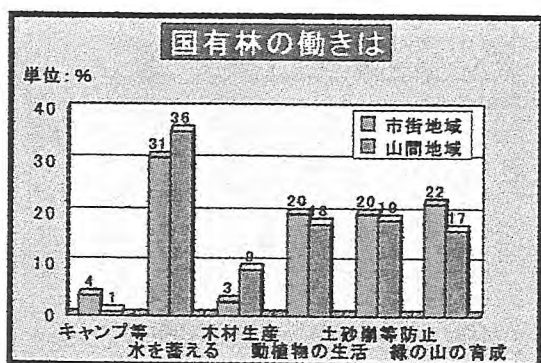


表-16

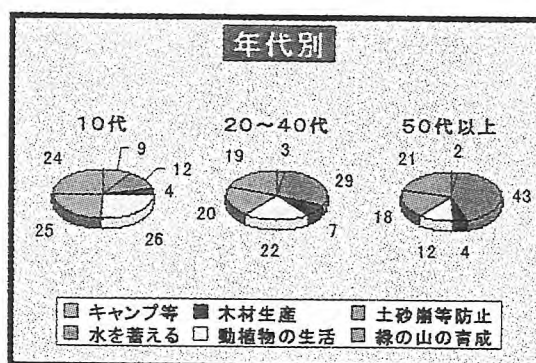


表-17

2つの地域の違いとしては、山間地域で「木材生産」を選んだ人が市街地域より多かった点であるが、山間地域では林業従事や仕事上関係している人が多かったことをふまえると納得できる。

それ以外では、両地域間に大きな違いは見られなかったが、全体として自然保護的なはたらき、特に「水を蓄える場所」を選んだ人の割合が高かった。その反面、「木材生産」や「キャンプなどの遊びの場」を選んだ人は少なかった。これは、10代の回答でも見られたことで、一般の人たちは、国有林を自然のはたらきの場として受け止めているようである。このことは、国有林の公益的機能を重視しようとする改革の方向と合致したものと言える。

(6) 山・森林に対する親近感と国有林に対する親近感の比較

ここでは、山・森林と国有林に対するそれぞれのイメージや知識をふまえた上で、それらを自分たちの生活に近いものと感じているのかどうかということを実験してみた。また、一般的な「山・森林」について聞かれた場合と「国有林」について聞かれた場合の違いがあるのではないかと考え、同じパターンの質問を繰り返した。

ア あなたは生活の中で、「山」や「森林」を身近に感じますか。(Q3)

両地域で、「強く」「少し」を合わせて「身近に感じる」という回答が約100%となった。この結果は、私の予想以上のものであり驚きであった。Q2では山との関わりの方として登山や山菜採り等が楽しまれていることがわかったが、それらは一般の人にとっては週末だけにできるレジャー的なものであって普段の生活とは離れたものなのではないかと考えていた。だが、実際は多くの人々が生活の中で山や森林を身近かなものとして感じているということは、とてもうれしいことである。

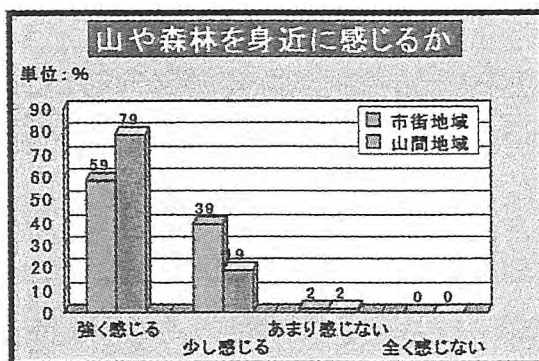


表-18

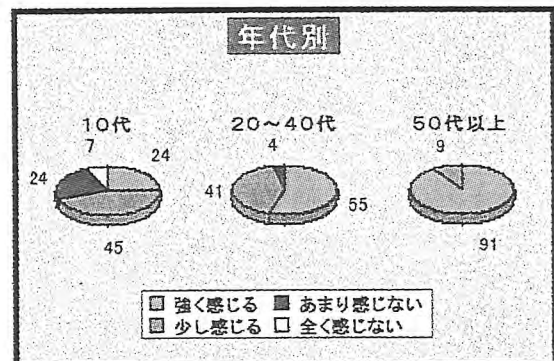


表-19

イ あなたは生活の中で、「国有林」のはたらきを身近に感じますか。(Q9)

ここでは、「強く」「少し」を、合わせて「身近に感じる」と答えた人の割合は、山間地域で87%、市街地域で72%となり、Q3の値よりは低いものの予想以上のうれしい結果であった。Q8において、国有林は生活水源域としてまた動植物等自然を守る場としてそのはたらきを期待されていることがわかったが、そうした国有林のはたらきを多くの人々が身近に感じているということは、これから国有林野事業の改革を進めていく上で忘れてはならないことだろう。

しかし一方で、「身近に感じない」という人の割合がQ3に比べて多くなっている

ことも事実である。また、上記のQ3では、「身近かに感じる」と答えた人の割合は両地域でほとんど同じであったのに対し、この質問では、山間地域の方が市街地域より15%高い。このことから、国有林については山間地域でより身近かなものとして感じられていると言える。

年代別で見ると、10代では80%近い人が国有林を「身近かに感じない」と答えていることが目立つ。Q3の「山・森林」についての質問では、10代の約30%の人が「身近かに感じない」と答えているが、それと比べてみても非常に高い割合である。国有林を知る手だて(Q5)のほとんどが、授業やニュースなど間接的なものであったことから考えて、10代の若い人たちにとって国有林は生活とはかけ離れた存在であると言えるだろう。

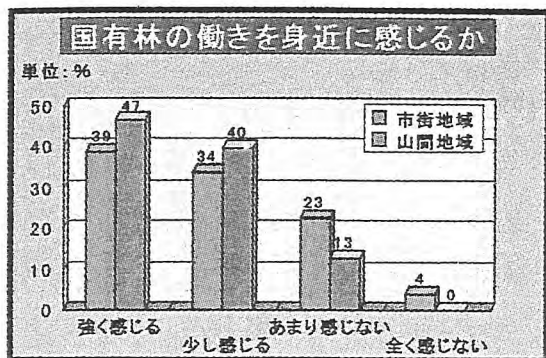


表-20

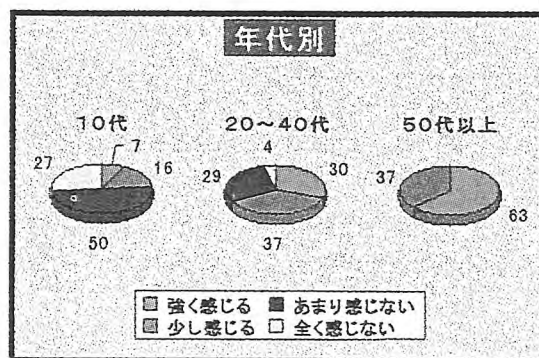


表-21

(7) あなたは山の仕事に興味がありますか。(Q10)

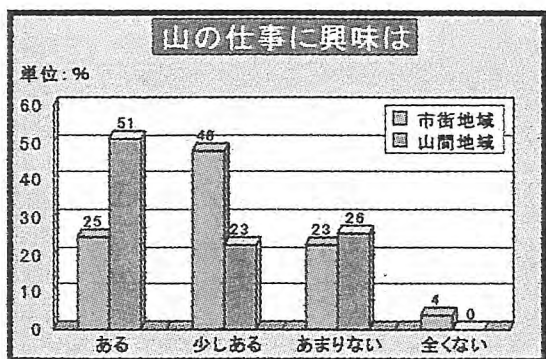


表-22

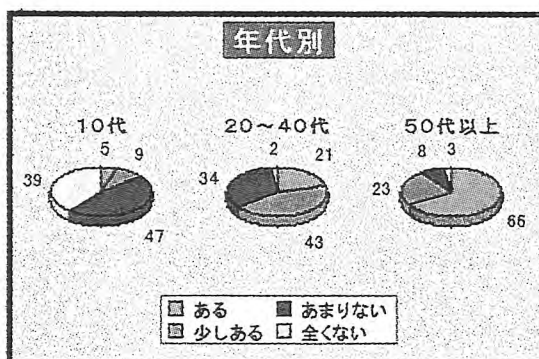


表-23

「ある」「少しある」を合わせると、両地域とも約70%の人が興味があると回答している。その中でも、山間地域で「ある」と答えた人が半数を占め、市街地域の25%と比べて高い割合である点が目立っている。市街地域よりも山が身近にあることの影響だろう。

また、年代別で見ると、年代が若いほど「興味がある」という回答の割合は低くなり、10代では10%強に止まってほとんどの人が興味がないという寂しい結果とな

った。若い人たちにとって仕事としての「山」は魅力あるものとしては写っていないようだ。

(8) **国有林に対するご意見を聞かせてください (Q11)**

- ・林道は舗装しない方がいいと思う
- ・開発は控えて維持管理を大切にしたい
- ・自然をもっとたくさんにしたい
- ・どれが国有林なのかかわからないので教えて欲しい
- ・木の伐採を止めて欲しい
- ・各地で洪水が起こったのは木を切りすぎて山の保水力が無くなったからではないか
- ・もっとたくさん木を植えて欲しい
- ・国有林ではどんなことをしているのかわかりやすく説明すればいいと思う
- ・間伐を徹底してもっとすばらしい山を作りたい
- ・営林署単位の経営を考え直すべき、職員の教育について考えて欲しい

4 まとめ

以上のアンケート調査の結果をまとめると、次のようになる。

①国有林に対するイメージは、両地域で良い印象を持っている人が多い。

②2つの地域の違いとして、以下の点が上げられる。このことから、市街地域よりも山間地域の方で国有林を生活に近いものとして感じている傾向が強いと言える。

- ・山との関わり方は、山間地域で林業従事者が多かったこと (Q2)
- ・「国有林」という言葉を、山間地域では知り合いの話や自分との直接の関係から知っている人が多かったこと (Q5)
- ・「国有林を身近かに感じる」と回答した人が、市街地域よりも山間地域の方が15%多かったこと (Q9)

③「山・森林」について聞いた場合と、「国有林」について聞いた場合を比較してみると、「山・森林」ではほとんどの人が「(イメージが) 明るい」「身近かに感じる」と回答しているのに対して、「国有林」では「(イメージが) わからない」「身近かに感じない」と答える人が多くなった。

④年代別に見ると、全体的に年代が若いほど山との関わり・国有林に対するイメージが薄くなっている。

今、国有林野事業は改革の出発点に立っているが、こうしたイメージは、人々に「国有林の現状と今後の改革を理解し協力しよう」と思ってもらうための下地というべきものである。もし下地が暗いものであったら、それをくつがえすことは大変なことであろう。その意味で、今回のアンケートで国有林に対するイメージが全体に良いものであったことは、希望の持てる結果であった。

反面、暗いイメージを持っている人がいることも事実であるし、特に10代の若い世代の人たちに関心を持たれていないことは懸念すべき点である。

今回のアンケートの結果から、今後PR活動をする上で配慮すべきこととして、次のことが言えるだろう。

①国有林との直接的な関わりを持つ人が少ないので、森林教室の開催、イベントへの積極的参加がさらに必要である。なお、地域や年代に関係なく人気のあった登山や山菜取りは、企画として一層注目される。

②ニュース等のマスメディアは、国有林側からの具体的な情報を提供する上で、十分に活用すべきであり、それを営林署・営林局全体でバックアップする。

③自分の将来を考える時期である10代後半の子どもたちへのはたらきかけを試みる。山仕事の体験、または山仕事の楽しさや苦労を話したりすることで、彼らの将来の選択肢の一つになれるかもしれない。

5 おわりに

森林官としてのこの一年は、毎日の業務をこなすことに精一杯で、対外的な活動には十分な気持ちを向けられなかった。もう少し心の余裕があれば、同じ状況でももっと違う答えを話せたかもしれないと、後から思うことが多かった。今回のアンケートは、そうした私自身が、これから何かを求められたときによりよい対応ができるようにという必要を感じて行ったものであった。

これからの国有林のはたらきは、今までの木材生産中心のものから水土保全・人との共生等公益的機能を重視したものへと転換することになった。変わっていく国有林を理解し認めていただくためには、地域の人たちへのはたらきかけも変えていかなければならないだろう。私自身も、一番地域に近い立場から努力して参りたい。

最後に、アンケートに快く参加してくださった一般の方々と盛岡市立高等学校の先生生徒さん、調査を手伝ってくださった地元雫石町のみなさま、そしてなにより今回のアンケート調査をするにあたってご指導・ご協力くださった当センターの職員の方々に、心からの感謝を申し上げます。

(参考資料)

- ・国有林の地域別の森林計画書
- ・盛岡営林署管内概要
- ・雫石森林管理センター管内概要